



アジサイの花（大阪市内）

トピックス：国有林における収支のプラス転換の実現に向けた「施業の効率化」の取組について（森林整備課）

ニュース：治山課、鳥取森林管理署

花草木：シモツケ

我が署のスタッフ：広島北部森林管理署

森林事務所等紹介：金沢森林事務所（石川森林管理署）

国有林最前線：奈良森林管理事務所

国有林における収支のプラス転換の実現に向けた「施業の効率化」の取組について

【森林整備課】

令和3年6月に閣議決定された「森林・林業基本計画」において、新技術を取り入れ、伐採から再造林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」の展開および「長期にわたる持続的な経営」を実現できる林業経営体の育成に力を入れていることとしています。

このことを踏まえ、当局では、造林作業のコスト削減に向け様々な取組を行い、検証してきました。特に下刈り及び獣害対策に関するコスト削減に積極的に取り組んできましたので、これまでの実証成果についてご紹介します。

1 下刈り回数の削減

(1) 取組の概要

下刈りは、植栽木の生育を阻害する雑草木を刈り払う作業であり、雑草木が植栽木と競合する場合にのみ刈り払いを行うことで、下刈り全体の削減を図ることが可能です。

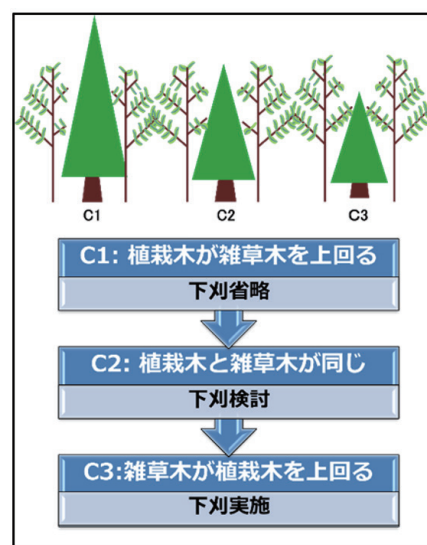
当局においては、下刈り要否の判断を植栽木と雑草木の競合状態を両者の相対的な樹高関係を指標化したC区分判定により行い、競合状態をC1～C3の三段階に分け、下刈りの要否を判断しています。

また、一部では、無下刈りで生育している事例もあり、現地の実態に応じ、真に実施しなければならないところはどこなのかを見極め、下刈りに取り組んでいます。

(2) 取組の成果・効果

これまで下刈りは、植栽木の樹高が雑草木より抜き出て生育に支障がなくなる時期まで毎年、画一的に実施しトータルで5～6回程度実行してきました。

現在、当局では、C区分判定の取組により、平均下刈り回数を2回程度まで削減するとともに、その年度に下刈り対象となる全面積のうち、70%程度を省略対象としています。



C区分判定



無下刈りによる植栽6年後の事例
(滋賀森林管理署)

2 下刈り時期の弾力化

(1) 取組の概要

下刈りは、植栽木が被圧のピークに近くなるとともに、雑草木が前年の生産の蓄積を使い果たす等の生態的な特徴を踏まえ、6月～8月を最適期として実行してきました。

当局においては、令和2年度から労務負担の軽減（熱中症予防）、労働安全の確保（蜂・マムシ対策）、誤伐率の低減、労務の平準化等を踏まえ、下刈りを秋・冬に実施するなど、時期の弾力化に取り組んでいます。

令和7年度には、これまでの実行箇所の追跡調査を行い、下刈り時期の弾力化に取り組むことが可能な条件の整理を行いました。

(2) 取組の成果・効果

調査の結果、現時点で、下刈り時期を弾力化して実行した箇所において、植栽木の生育に支障が生じた箇所は確認されておらず、適さない条件は特定されませんでした。

このため、競合する雑草木の種類等（タケニグサ等が優先的に生息する箇所は除く。）を問わず、可能なところは、下刈り時期の弾力化に取り組みます。

また、近年の気候変動の影響や労務負担等を考慮して、確実に事業を実行していくためには、夏期に下刈りを実行する場合は、理由を精査し、箇所を限定していく必要があると考えています。



下刈りの秋季実施の事例
(山口森林管理事務所)

3 防護柵資材のコスト削減

(1) 取組の概要

主伐・再造林を進めていくなかで、シカの増加による新植苗木への被害が深刻になっており、再造林のコスト削減を進めるうえで、より安価な防護柵の設置が必要です。

当局においては、これまで防護柵の設置に当たっては、FRP*支柱やステンレス入ネット等を活用してきましたが、防護柵資材のコスト削減に向け、可能なところから、支柱には立木を、ネットにはホームセンターでも購入可能な安価な資材（アニマルネット）の活用等に取り組んでいます。

※ FRP：繊維強化プラスチック



立木支柱及びアニマルネットの活用
(島根森林管理署)

(2) 取組の成果・効果

支柱に立木を活用することで、支柱経費を削減することが可能となりました。また、アニマルネットを活用することで、通常のネットの半分程度の価格で資材を購入することが可能となるとともに、重量も軽いため持ち運びが容易となる等の効果がでています。

以上、これらの実証成果については、民有林関係者を含めた森林施業に関する現地検討会の開催等を通じて、実践事例の紹介や実施方法の普及等に取り組んでいきます。

また、これらの取組については、実践事例紹介として多数の写真を掲載したパンフレットを作成し、当局ホームページに掲載していますので、興味のある方はご覧ください。

ホーム > 事業概要 > 民有林との連携 > 3. 低コスト造林等の推進 > 造林作業のコスト削減に向けた取組～実践事例紹介～ <https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/kikaku/attach/pdf/poapf-3.pdf>

